

The Asian Law Students' Association Japan

Japan Trip 2003

From ALSA-Korea

企画書

The logo for The Asian Law Students' Association (ALSA) is rendered in a bold, red, stylized serif font. The letters 'a', 'l', 's', and 'a' are interconnected, with the 'l' being particularly tall and thin. The 's' is a cursive-style 's' that loops back into the second 'a'. The overall appearance is that of a classic, elegant typeface.

The Asian Law Students' Association

◆団体紹介◆

私たちは、The Asian Law Students' Association Japan(日本名：アジア法学生協会ジャパン)(以下 ALSA)という団体です。1996年11月、The European Law Students' Association(訳名：欧州法学生協会)(以下 ELSA)のメンバーの来日に合わせ、日欧法学生会議が行われました。ALSA はこれに参加した東京六大学からの有志 20 名によって、同年 12 月 22 日に設立されました。現在の会員数は 110 名に上り、早稲田大学・中央大学・東海大学・東京国際大学が加盟するとともに、東京大学・一橋大学などにも会員が在籍しています。

◆活動内容◆

ALSA は、アジアの法学生同士がネットワークを構築し、同じアジアの法学生として学術活動、文化紹介、相互交流などを進めていくことを目的とする団体です。学術活動を通じて、法のもつ平等・公平・正義などの普遍的な理念のもとに行われる相互理解を成し遂げること、さらに、各国の文化や価値観の法への反映を認識することで、真にこのアジア地域の多様性を理解することを目指しています。文化紹介では、建築、食事、武道などの各国の文化を相互に紹介し、アジア各国の文化に対する造詣を深める機会を設けていきたいと思っています。そして究極的には、ALSA はこのような学術活動・文化紹介等を経験することを通して、依然としてこのアジア地域に残る様々な偏見や対立を乗り越えて、アジアの法学生が真の交流を行うことができることを目指しています。

これらの趣旨に賛同した海外の法学生により、アジア各国でも ALSA が設立されました。2000 年には台湾と韓国に、2002 年には香港に ALSA が設立され、2003 年度中に ASEAN 法学生協会(タイ・シンガポール・マレーシア・フィリピン・インドネシア)も ALSA と合併する予定です。

ALSA では上記のような趣旨に基づいて、毎年主に ALSA 各国との交流企画を運営しています。そのうち Study Trip は二カ国間もしくは二地域間交流企画を、Forum は多国間交流企画を意味します。

近年の実績

2000 年 International Forum III(日本にて開催)・ST 韓国

2001 年 The Asian Law Students' Forum2001(韓国にて開催)・ST 台湾

2002 年 The Asian Law Students' Forum2002(日本にて開催)・ST ポーランド

2003 年 ST 台湾

◆ALSA の可能性◆

20 世紀は戦争の世紀とも言われ、戦争の惨禍が世界全体、特にこのアジア地域にもたらされる世紀でした。その惨劇の影響は戦後にも長く続くものであり、今日においても様々な偏見や差別として存在しています。しかし、そのような状況も真摯に互いの言葉に耳を傾ける姿勢を持ち、相互の理解の必要性を意識して交流することで少しずつ変わってくるものと信じています。将来、各国をリードする企業人や、法曹、政治家などへの道を歩む法学生の交流はその意味で可能性を大いに秘めたものであると思います。21 世紀がアジアの世紀になるとすれば、互いを信頼しあえる関係が醸成されていることが前提になります。ALSA はその前提に貢献できる内容をもった団体であると思っています。

◆企画趣旨◆

1. 日韓相互の司法制度改革を焦点にした学術交流
2. 日本の古都、京都で行う地の利を活かした文化交流
3. 学術と文化、2つの国際交流を通じた日韓の継続的な相互理解

この”Japan Trip 2003”という企画は、前述の二カ国間交流企画”Study Trip(ST)”の1つとして位置づけられます。STの特徴としては、自国の法だけでなく、相手国の法についても研究が必要とされるようなディスカッションのトピックを選ぶことによって、相手国・地域の法を学ぶ良い機会となっている点や、ディスカッションのみならずフィールド・ワークも行う点、さらには学術活動だけでなく、文化紹介等を通じて親睦を深めることができる点等が挙げられます。このSTによって、二国間のより深い相互理解が可能となります。

今回の”Japan Trip 2003”とは、2003年8月に ALSA-Korea の会員がSTとして来日するものです。韓国の会員が日本を訪れ、日本側の会員とともに、上記のような学術活動・文化紹介を通じた相互交流を行います。

学術活動では、テーマとして「司法制度改革」を扱います。日本では法科大学院の開設が間近に迫り、また、裁判員制度の導入など国民に直接関わる制度もいくつか導入を予定されています。今、司法制度改革は私たち法学生にとっても、そして一般の国民にとっても、最も注目すべき話題といえます。一方で、韓国でも1993年の司法発展構想以降、1995年の世界化推進委員会と韓国大法院の共同立案による司法改革構想、及び1999年から活動を開始した司法制度改革委員会の司法改革構想等が立案され、現在も司法制度改革が進行中です。日韓の法学生同士の学術交流のテーマとして、今、これほど注目すべき話題は他にはないでしょう。

また、これまでの日本国内における ALSA の活動拠点は東京でしたが、今回は開催地として京都を選びました。これは ALSA 初の試みです。京都には金閣・銀閣をはじめとして、日本が世界に誇るべき文化遺産が目白押しです。日本の文化は素晴らしいものであり、それは是非世界に伝えるべきものだと思います。また、それと同時に、近年のグローバリゼーションの流れの中で、私たち日本人も自身のアイデンティティとして日本の文化を再認識することが必要だと考えます。このような観点から考えると、日本において文化交流を行う上で、京都以上にふさわしい場所はないでしょう。

2002年にはワールドカップが開催されるなど、日本と韓国にはお互いに歩み寄る姿勢もいくつか見受けられます。一方で、依然として偏見や差別、対立は存在し、これら諸問題の解決には時間がかかるでしょう。しかし、私たち学生は政治的・社会的・宗教的に自由な立場にあり、このような中でも国際交流を比較的自由に行うことができます。さらに、将来的に社会の諸分野でリーダーシップを発揮していくことを要請されるであろう私たち法学生にとって、私たちが実際にこれらの解決にあたるということも十分に考えられます。したがって、上記のような状況下において、学生時代から韓国と友好を築いてゆくことは、現在だけでなく、将来的にも非常に有意義なことであると思います。

この”Japan Trip 2003”を通じて日韓の相互理解を図ることが、将来的に両国の平和的協調につながることを目指します。

◆開催概要◆

1.日程

2003年8月3日(日)～2003年8月9日(土)

2.開催地

学術活動：ノートルダム女子大学

文化交流：京都市内各所

宿泊地：錦水館

3.参加人数

日本人一般参加者&テーブルスタッフ：23名

韓国人参加者：22名

日本人スタッフ：12名

合計：57名

4.参加費

33,000円(交通費・食費除く)

◆日程◆

8月3日(日)

韓国人参加者来日

8月4日(月)

8:30 ノートルダム女子大学集合
9:00~11:30 開会式& Communication Time
11:30~13:00 昼食&休憩
13:00~18:00 分科会①
19:00~21:00 Welcome Party

8月5日(火)

9:00~12:00 分科会②
12:00~13:00 昼食&休憩
13:00~18:00 分科会③
18:00~ Free Time

8月6日(水)

9:30~11:30 シンポジウム
12:00~13:00 昼食&休憩
13:00~15:00 発表会準備
15:00~18:00 発表会
18:00~ Free Time

8月7日(木)

終日 Cultural Trip 1日目
19:00~21:00 Farewell Party

8月8日(金)

午前 Social Days
午後 Cultural Trip 2日目

8月9日(土)

韓国人参加者帰国

◆ 学術活動 (Academic Activity) ◆

テーマ 「これからの司法のあり方とは——司法制度改革を考える——」

<趣旨>

現在、わが国では戦後以来の司法制度改革が進行しています。

わが国の現状を見ると、国民は裁判を受ける権利を持っているにもかかわらず、日常生活においてほとんどそのことを意識することはありません。それは、今日に至る司法制度が、「法」と「市民」の繋がりをあまり重視してこなかったためであると言えます。しかし、「法」と「市民」が密接な関係をもつことこそが、私たちの社会を自分自身で監視し、営んでいく原点であると言えるでしょう。

今回議論されている司法制度改革を見ますと、まず「国民の司法参加」という視点から、『裁判員制度』が導入されようとしています。これにより裁判において国民の声が直接判決に反映されていくこととなります。私たちは、ただ裁かれるだけの「受動的国民」から、裁判活動の主体となる「能動的国民」になることが求められています。次に「国民に身近な司法」という視点から、国民に最も身近な法曹である弁護士を全国の地域に満たすために司法試験の合格者を増やし、さらに今までよりも実務的な教育を提供する法科大学院の設置も進行しています。また、より利用しやすい司法を目指し、民事・刑事訴訟法の改正も視野に入れながら裁判の迅速化・明確化が図られています。

思うに、司法制度を改革するためには、法に携わる法曹界と市民の両レベルでの改革が必要です。その中間に存在するのが私たち「法学生」であると考えます。市民であると同時に未来の法曹界を見据える私たちだからこそ、市民・法曹界の両方を見つめなおし、問題点を提起し、その解決策を考えることができるのです。

さらに、私たち、アジア法学生協会の学生は東アジアの仲間である韓国の学生を迎えて、国際社会における司法のあり方について議論することで、より広い視点からの疑問点や考案を見つけ出していくことができると考えています。

韓国においてもここ十年で司法制度に関する委員会が何度も設置され、論点とされている内容も日本と非常に近いものです。アジアを担う一国としての認識や関心度は非常に高いものがあり、日韓両国の学生が切磋琢磨しながら両国の司法のあり方について議論することは有益でしょう。既存の他国の司法形態を比較検討しつつ、日本と韓国、この両国に適した司法制度とは何かを追求していきます。そして、司法制度とともに両国の文化・歴史を通じた相互理解を深める学術を、これからの時代を担う法学生として提供します。

<進行>

i) 分科会① テーマ「司法と法曹」

- 参加者が五つのテーブルに分かれ、「司法と法曹」というテーマのもと TC が考えた内容で論議する。
- 各テーブルには Coordinator(TC)と Assistant(AC)と呼ばれる進行役を配置する。
- TC は日本人 TC 三人、韓国人 TC を二人とする
- 使用言語は、英語初心者用の日韓通訳テーブル一つ*を除いてすべて英語とする。

ii) 分科会②・③ テーマ「司法と市民」

- テーブル参加者を入れ替え、五つのテーブルで「司法と市民」というテーマの下 TC が設定した内容で論議する
- TC・AC の進行役は分科会①同様配置する。
- 分科会①同様、使用言語は英語初心者用の日韓通訳テーブルを一つ*を除いてすべて英語とする。

*ただし、通訳テーブルへの参加は分科会①と分科会②・③のどちらかだけとする。

iii) シンポジウム テーマ「司法への市民の参加」

- 実際に市民と司法の橋渡し役をしている実務家の方々に、司法への市民の参加はどうあるべきかをお伺いする。
- パネリストとして、日本・韓国の司法制度に詳しい実務家の方を複数お招きする。
- 講師のかたがたにパネルディスカッションをしていただき、また前日までのテーブルでの議論をもとに積極的に意見や質問を実務家の方々にぶつけ、この後のテーブル発表会へ向けての足がかりとする。

iv) 発表会へ向けての準備

- テーブルでの議論と、シンポジウムでのパネルディスカッション・質問討議をもとに、この後のテーブル発表会の準備を参加者主体で行う。
- 発表テーブルは分科会②・③のテーブルとする。
- 参加者主体で発表会を行うため、TC・AC は補助役をする。

v) 発表会 テーマ「司法への市民の参加」

- この三日間の Academic Activity の成果として、テーブルで何を議論したかを参加者主体で発表する。
- 発表の形式は各テーブルの方法に任せるが、他の参加者にわかりやすいことを前提とする。
- 使用言語は全テーブル英語とする。

◆文化交流◆

今回の **Japan Trip 2003** においては、日韓相互の文化交流のために「最高級の交流の場」を提供します。「最高級の交流の場」とは何か？それは、参加者自身が、見つけ感じとるものです。そのために、下記のようなイベントによって、日本と韓国の友情を育む場を演出し、日韓の今後の継続的な友好親善をもたらします。

1. Welcome Party

日程初日、韓国からのゲストを歓迎するために **Welcome Party** を開催します。ここでは、参加者同士がお互いの顔と名前を知ることによって、翌日以降のプログラムを一層盛り上げます。また、**Cultural Night** という、日本と韓国がそれぞれの文化をお互いに紹介しあうイベントを設けます。

2. Social Days

ディスカッション最終日に、京都府内にある司法に関連した施設などを訪問します。文化交流の企画としての位置づけですが、ただ訪問するだけでなく、ディスカッションと関連付けることでこの **Social Days** を有意義なものにしたいと考えています。また、このほかにも、日本と韓国の文化にまつわる施設等の訪問も考えています。

3. Cultural Trip

日程後半、日本が誇る文化施設を韓国人ゲストとともに訪問・観光することにより日本の文化をより深く知ってもらうということと同時に、**Cultural Trip** をきっかけとしたゲストとのより深い交流を促進します。**Cultural Trip** 1 日目は、幾つかのグループに分かれ、日本人が韓国人ゲストを案内してまわるという形で、嵐山や、祇園などを観光します。また、**Cultural Trip** 2 日目は、参加者全員で日本が誇る世界遺産である、金閣寺、龍安寺、仁和寺といった日本文化と歴史の本質に迫ることのできる場を訪れます。

4. Farewell Party

日程最終日の夜、ここまでの日程を振り返りつつ、**Farewell Party** を行います。この **Japan Trip 2003** をともに過ごして来た参加者は皆仲間であり、別れは名残惜しいものですが、ここで最後の思い出作りの場を演出します。

◆予算◆

<収入>

	金額	人数	計
参加費	33,000	57	1,881,000
ALSA 拠出金	50,000		50,000
株式会社法学館助成金	50,000		50,000
早稲田大学課外活動補助金	100,000		100,000
			2,081,000

<支出>

	金額	人数	計
宿泊費	3,675	57	1,256,850
パーティー費	7,000	57	399,000
講演会費	20,000		20,000
印刷費	100,000		100,000
海外参加者交通費(国内)	2,300	27	147,200
文化交流プログラム	2,400	57	136,800
			2,059,850

< 支出内訳 >

内容	詳細	内訳	計	
宿泊費		$3675 \times 57 \text{ 人} \times 6 \text{ 泊} = 1256850$	1256850	錦水館
パーティー費	Welcome party farewell party	$3500 \times 57 \text{ 人} = 199,500$ $3500 \times 57 \text{ 人} = 199,500$	390,000	
講演会費	謝礼 花代	15,000 5,000	20,000	
印刷費	報告書代(80 部) レジュメ代(100 部) 宣伝用紙代(100 部) パンフレット代(250 部)	20,000 10,000 20,000 50,000	100,000	
海外参加者 交通費 (国内)	韓国側参加者 20 名 スタッフ 5 名	$2,300 \times 22 \text{ 名} \times 2 = 101,200$ $2,300 \times 5 \text{ 名} \times 4 = 46,000$	147,200	関西空港～京都 (JR 利用)
文化交流 プログラム	周遊キップ 金閣寺拝観料 竜安寺拝観料 仁和寺拝観料	$500 \text{ 円} \times 57 \text{ 人} \times 2 \text{ 日} = 57,000$ $400 \text{ 円} \times 57 \text{ 人} = 22,800$ $500 \text{ 円} \times 57 \text{ 人} = 28,500$ $500 \text{ 円} \times 57 \text{ 人} = 28,500$	136,800	

支出合計 2,059,850

◆スタッフ◆

1. スタッフ

実行委員長：富田直矢(早稲田大学法学部 2年)

副実行委員長：新谷雄三(早稲田大学法学部 3年)

総務：新谷雄三(早稲田大学法学部 3年)

皆川直康(東海大学政治経済学部経営学科 3年)

長谷川聡美(中央大学法学部国際企業関係法学科 2年)

外務：富田直矢(早稲田大学法学部 2年)

渉外：重嶋まみ(中央大学法学部政治学科 3年)

飯田奈穂(中央大学法学部法律学科 2年)

今村紀子(中央大学法学部国際企業関係法学科 2年)

大江晋介(早稲田大学政治経済学部政治学科 2年)

黒石真那実(早稲田大学法学部 2年)

山田史(中央大学法学部国際企業関係法学科 2年)

学術：北森明日香(中央大学法学部国際企業関係法学科 2年)

山下真央(中央大学法学部国際企業関係法学科 2年)

交流：副島早苗(早稲田大学法学部 3年)

会計：相坂浩二(中央大学法学部法律学科 2年)

2. テーブルスタッフ

テーブル1

TC：太田寛子(中央大学法学部国際企業関係法学科 2年)

AC：井手健介(中央大学法学部政治学科 2年)

テーブル2

TC：岸本康太郎(早稲田大学法学部 3年)

AC：今村紀子(中央大学法学部国際企業関係法学科 2年)

AC：星野公哉(中央大学法学部 1年)

テーブル3

TC：畑山重幸(早稲田大学第二文学部 2年)

AC：岸健人(中央大学法学部政治学科 2年)

AC：藤村愛奈(早稲田大学法学部 1年)

◆連絡先◆

実行委員長 富田直矢

e-mail straightarrow@asagi.waseda.jp

副実行委員長 新谷雄三

e-mail ys_bacchus@hotmail.com

ALSA-Japan Homepage <http://www.alsa-jp.net>

Japan Trip 2003 Homepage <http://www3.to/japan-trip/>